

「ほめ言葉のシャワー」（あたたかい言葉かけ）

ねらい：あたたかい言葉かけとは何かを知り、あたたかい言葉をかけられる経験を通してその心地よさを知ること、人間関係もあたたかくする。自分が感じた友達のいいところを上手に相手に伝えられるようになる。

- ・ あたたかい言葉をかけられたときの心地よさを味わわせる。
- ・ 友達のほめ言葉を聞いて、自分のほめ言葉のレパートリーを増やす。

獲得目標とするスキル：「こころを伝える話し方」「あたたかい言葉かけ」

相手に近づく。相手をきちんと見る。聞こえる声で言う。笑顔で言う
あたたかい言葉かけは「相手の様子＋感情を表す言葉」からなることを知り、相手に伝えられる。

事前に：「いいとこさがしの機会を多くもつ」「ほめ言葉が通じる関係に」

席替えや学期末などの機会にいいところ探しを行う。クラスみんなに発表をしたり、教室に掲示したりしてためていく。壁面にはいいところを表す言葉をたくさんならべる。そのねらいは、いいところを見つける目を育てること。

とくに、高学年や、自己評価の低い子はほめ言葉をもらっても素直に受け取れないことがある。教師からのほめ言葉が通じる関係になるよう日頃のかかわりを見直したり、エンカウンターなどのプログラムを行うのも有効である。

事後に：体育の時間や行事のあとを活用。

「相手の様子＋感情を表す言葉」という伝え方を覚えた子どもたちに実践の場を用意する。体育の時間、チームでの話し合いで、その時間のよかったところを伝えあう。行事が終わったときや帰りの会などで、見つけた友達のよさを伝えあう。子どもたちははじめ、自分にとって有益だったことを友達のよさとするのがよく見られるが、自分以外の人にとってよかったことやその子自身が努力していることなどをよさとして伝えている子に気づかせる。自分だけが気がついたよという内容をできるだけ伝えられるようにさせていく。

集めた「いいとこさがし」を印刷し、保護者にも伝えていく。

児童の活動	* 援助 評価
<p>インストラクション 1, 問題をもつ。 事前に書いた「いいとこさがし」を、みんなで読む。 読んでみてどう感じたかを伝え合う。</p> <p>モデリング 2, 気づく 「いいとこさがし」を伝えられた時の体の感じを知る。 あたたかい言葉かけとは何かを知る。 隣の席の友達のよさをあたたかい言葉にする。「いいとこさがし」の冊子から選んでもよいように伝える。 代表に発表してもらい、そのときも気持ちを伝え合う。</p> <p>リハーサル 3, 体験する。 グループになり、友だちのよさをあたたかい言葉かけにしながらい交代をして伝え合う。 どんな時のことをどのようにほめてほし いかを伝えてからやってみる。</p> <p>フィードバック 4, 振り返る それぞれの立場の時にどのように感じたかを伝え合う。 実際にあたたかい言葉かけをしている場面を思い出す。 5, 本時のまとめをする。</p>	<p>* 4月から、何度か「いいとこさがし」をして、ともだちのよさを見つける目を育てておく。 (見つけてもらった数よりも見つけてあげられる目が必要であることを伝えておく。)</p> <p>* 冊子にして配布をする。</p> <p>* 体の中があたたかくなることを感じられるようにする。</p> <p>* あたたかい言葉かけの例を出し、「相手の様子+感情語」であることを伝える。</p> <p>* 伝え方のモデルを見せる。 あたたかい言葉かけに書きなおすことができたか。</p> <p>* 「心を伝える話し方」が大切であることも伝える。 相手に近づく。 相手をきちんと見る。 聞こえる声で言う。 笑顔で言う。</p> <p>* 4～5人のグループでおこなう。 あたたかい言葉かけになっているか。 「心に伝える話し方」を意識して練習できたか。</p> <p>* あたたかい言葉かけは、応援したり、励ましたり心配を伝えたりする場合にも使えることを伝える。</p> <p>* 実際の生活につなげられるように促す。</p>

